

令和 8 年度

第 1 回東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部ネットワーク会議

次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会長
福島県文化スポーツ局長
- 3 報告
 - I 令和 7 年度事業報告
 - II 活動調査アンケート結果について
- 4 協議
 - I 令和 8 年度事業計画
 - ①ふくしま震災伝承者交流会について
 - ②3. 11 被災地視察研修について
 - ③令和 8 年度伝承者育成講座について
 - ④令和 8 年度伝承者育成講座（中国語話者向け）について
 - ⑤令和 8 年度伝承者育成講座（英語）（案）について
 - ⑥令和 8 年度語り部県内派遣事業（案）について
 - ⑦令和 8 年度語り部県外派遣事業 県外派遣者（案）について
 - II その他
- 5 閉会

場所 双葉町産業交流センター 大会議室

日時 令和 8 年 5 月 15 日（金） 14 : 00～15 : 20

参加者名簿

【会 員】（方部別 五十音順）

NO.	所 属	氏 名	出欠
1	F. tellers (エフ・テラーズ)	前川 直哉	出
2	シン・ふくしま自治体職員の学校	平野 勝長	欠
3	星降る古里ひろの	鈴木 恵子	出
4	山百合の会	松田早百合	出
5	子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団	佐藤 敬子	出
6	震災ダンボールアート語り部の会	遠藤 昭三	欠
7	ふくしまリアリ	山口 祐次	出
8	藤沼湖自然公園 復興プロジェクト委員会	深谷 武雄	欠
9	會空（あいこう）	庄子ヤウ子	出
10	防災語り部の会	鶴見美佐子	出
11	NPO法人市民活動ネットワーク相馬	佐藤 友子	出
12	相馬市観光協会	草野 清貴	欠
13	南相馬 原発・震災語り部の会	岩橋 光善	出
14	原発震災を語り継ぐ会	高村 美春	出
15	ニコニコ菅野農園	菅野 クニ	出
16	浪江まち物語つたえ隊	岡 洋子	出
17	大堀相馬焼協同組合	半谷 貞辰	欠
18	いわもと社会福祉士事務所	岩本美智子	出
19	東日本大震災・原子力災害伝承館	横山和佳奈	出
20	双葉町語り部の会	國分 信一	出
21	大熊未来塾	木村 紀夫	出
22	おおくま町物語伝承の会	橋 秀人	欠
23	HITOkumalab	佐藤 亜紀	欠
24	FUKUSHIMA WWW.（フクシマウィーアー）	佐藤 夏美	出
25	富岡町 3・11を語る会	青木 淑子	出
26	J ヴィレッジ	鶴本 久也	欠
27	いわき語り部の会	大谷 慶一	出
28	いわき市観光物産センター（いわき・ら・らミュウ）	本田 和弘	欠
29	ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）	古川 健	欠

【オブザーバー】

NO.	所 属	氏 名
1	川俣町教育委員会生涯学習課 主査	三浦 宙馬
2	檜葉町教育委員会生涯まなび課 課長補佐	佐藤 英治
3	富岡町教育委員会生涯学習課 副主査	安田 尚希
4	双葉町教育委員会生涯学習課 主任学芸員	星 洋和
5	子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団	佐藤 千晴
6	防災語り部の会	鶴見 常夫
7	いわき語り部の会	大河内喜男

【事務局】

NO.	所 属	氏 名
1	福島県生涯学習課 課長	中村 敬
2	福島県生涯学習課 主幹兼副課長	斎藤 才子
3	福島県生涯学習課 主任主査	平栗 哲也
4	福島県生涯学習課 主査	久保木皓生
5	福島県生涯学習課 副主査	舟木真実恵

3 報告

I 令和7年度事業報告

1 ネットワーク化・レベルアップ

- (1) 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
 - ・第1回 令和7年5月15日(木) 東日本大震災・原子力災害伝承館 研修室
 - ・臨時総会 令和7年7月2日(水) 富岡町文化交流センター 小ホール
 - ・第2回 令和8年2月7日(土) 双葉町産業交流センター 大会議室
- (2) ふくしま震災伝承者交流会(令和7年12月9日(火))
 - ・講話 「目に見えない放射線 ―伝えたかったことと聞いたかったこと―」
講師 株式会社千代田テクノ社長付特別顧問／近畿大学客員教授 杉浦 紳之 氏
 - ・交流会 テーマ「あなたなら どう伝えるか？」
進行 ふくしま語り部ネットワーク会議 青木淑子会長
参加者 50名

2 伝承者育成

- (1) 伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム会議
 - ・第1回 令和7年7月2日(水) 富岡町文化交流センター 小ホール
 - ・第2回 令和8年1月23日(金) 福島県庁本庁舎5階 企画調整課分室1
 - (2) 伝承者育成講座・中国語講座(全4回)
 - 伝承者育成講座 修了者9名
 - 中国語講座 修了者1名
 - (3) 伝承者育成英語講座(全5回)
 - 修了者 4名
- ※育成講座(日本語・中国語・英語)実施概要(別紙資料)

3 語り部派遣

- (1) 語り部県内派遣事業

派遣案内チラシを福島県教育庁担当課及び私学・法人課を経由して、県内教育機関へ送付するとともに、語り部の積極的な活用を依頼した。

 - ・義務教育課→公立小中学校(義務教育学校含む)、福島大学附属学校
 - ・高校教育課→県立高等学校
 - ・特別支援教育課→県立特別支援学校
 - ・私学・法人課→私立小中高等学校、専修学校
- (2) 語り部県外派遣事業

派遣者数 延べ59名

※令和7年度語り部県外派遣の実績(別紙資料)
- (3) 3.11被災地視察研修(令和7年10月9日～10日)

東松島市東日本大震災復興祈念公園、東松島市震災復興伝承館、
未来学舎KIBOTCHA、松島市内の語り部との交流会
参加者 18名

令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座／中国語講座 実施概要

○開講式・第1回伝承者育成講座

受講生19名（育成講座18名、中国語講座1名）

【日時】令和7年7月19日（土）10:20～16:30

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室

【内容】開講式

1時間目「語り部の役割」

講師：ふくしま語り部ネットワーク会議会長 青木淑子氏

2時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

講師：富岡町3・11を語る会代表 青木淑子氏、福島大学准教授 前川 直哉氏

3時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

講師：ふくしまリアリ代表 山口祐次氏



○第2回伝承者育成講座（1日目）

受講生 18名（育成講座16名、中国語講座1名、中国語講座聴講1名）

【日時】令和7年9月27日（土）9:30～16:00

【場所】大熊町・いわき市薄磯地区

【内容】フィールドワーク①大熊町 講師：大熊未来塾代表 木村紀夫氏

フィールドワーク②いわき市薄磯地区 講師：いわき語り部の会代表：大谷慶一氏



○第2回伝承者育成講座（2日目）

受講生 18名（育成講座16名、中国語講座1名、中国語講座聴講1名）

【日時】令和7年9月28日（日）9：00～15：30

【場所】双葉町産業交流センター

【内容】1時間目 意見交換会 講師：福島大学准教授 前川 直哉氏

2時間目「伝わりやすい話し方講座」講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏

3時間目「プレゼンテーションスキルアップ」講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏



○第3回伝承者育成講座

受講生 8名（育成講座7名、中国語講座1名）

【日時】令和7年11月29日（土）10：30～14：30

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室等

【内容】「プレゼンテーションスキルアップ」

講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏、福島大学准教授 前川 直哉氏、
ふくしまリアリ代表 山口祐次氏



○第4回伝承者育成講座

受講生 10名（育成講座9名、中国語講座1名）

【日時】令和8年2月7日（土）10:00～12:00

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室等

【内容】「成果発表」

講師：福島大学准教授 前川 直哉氏、富岡町3・11を語る会 代表 青木 淑子氏、
ふくしまリアリ代表 山口祐次氏、東北大学 准教授 佐藤 翔輔氏

中国語講座アドバイザー：（公財）福島県観光物産交流協会

観光部 海外誘客推進課 担当 陳 映蓉氏



令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座（英語） 実施概要

1 講師

伊藤 Odbayar氏（リングイスト語学スクール代表）
：発音、イントネーション等英語指導等
野地 雄太氏（株式会社Beyond Lab代表取締役）
：「語り部」としての視点からの英語指導、表現のアドバイス等

2 日程・内容

○第1回講座

【日時】令和7年7月19日（土）

受講生①の講座：10：30～11：30

受講生②の講座：12：30～13：30

受講生③の講座：14：00～15：00

受講生④の講座：15：30～16：30

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室

【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」翻訳原稿の表現確認、質疑応答、原稿の音読等。

○第2回講座

【日時】令和7年9月27日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座②」原稿修正、原稿の音読、発音指導等。

○第3回講座

【日時】令和7年11月1日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座③」原稿の音読、発音指導、音読から伝える語りへの練習等。

○第4回講座

【日時】令和7年12月6日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

受講生④の講座：14：00～15：00

【内容】「翻訳原稿の音読講座④」原稿の音読、発音指導、スライド資料を使用した語りの練習等。

○第5回講座

【日時】令和8年2月7日（土）10：00～12：00

【場所】双葉町産業交流センター 中会議室

【内容】「成果発表」

※アドバイザー 福島県国際課 国際交流員 Annabelle Purnomo 氏

令和7年度語り部県外派遣の実績

02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

1. 派遣実績一覧

本事業における語り部派遣の実績は59件、聴講者数は5,136名であった。

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者	団体	行事名	決定講師	予定聴講 者数(名)	実聴講者 数(名)
1	令和7年5月24日 (土)	茨城県	ハクビ京都きもの学院茨城師範会	星降る古里ひろの	免許授与式&パーティー	鈴木恵子	60	45
2	6月21日(土)	東京都	NPO法人きよせうぽ (小学5,6年生対象)	富岡町 3・11を語る会	防災授業	宗像涼	70	88
3	6月21日(土)	東京都	NPO法人きよせうぽ (小学3,4年生対象)	富岡町 3・11を語る会	防災授業	宗像涼	60	87
4	6月21日(土)	東京都	NPO法人きよせうぽ (保護者・地域住民対象)	富岡町 3・11を語る会	防災イベント	宗像涼	30	30
5	6月22日(日)	熊本県	原発避難計画を考える水俣の会	原発震災を語り継ぐ会	福島原子力災害の経験から水俣の避難計画を考えよう	高村美春	30	20
6	7月8日(火)	長崎県	清水地区自治協議会・コミュニティーセンター 北地区自治協議会・コミュニティーセンター	いわもと社会福祉事務所	福島語り部のおはなし会 ～3C3J共催講座～	岩本美智子	80	85
7	7月8日(火)	長崎県	山澄地区自治協議会・コミュニティーセンター	いわもと社会福祉事務所	福島語り部のおはなし会 ～3C3J共催講座～	岩本美智子	80	52
8	7月9日(水)	長崎県	佐世保女子高等学校	いわもと社会福祉事務所	東日本大震災を通し命の大切さを学ぶ	岩本美智子	160	120
9	7月15日(火)	東京都	東京都立農芸高等学校	いわき語り部の会	第2学年 震災学習	石川弘子	137	130
10	8月22日(金)	岡山県	備前市役所 文化スポーツ部 生涯学習課	いわき語り部の会	「災害時の人権」 ～地震・津波への初期対応と 避難生活時の配慮～	大河内喜男	50	49
11	8月29日(金)	山形県	川西町立中郡小学校	浪江まち物語つたえ隊	「東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部」震災講話 (下学年)	岡洋子	54	54
12	8月29日(金)	山形県	川西町立中郡小学校	浪江まち物語つたえ隊	「東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部」震災講話 (上学年)	岡洋子	56	56
13	9月4日(木)	香川県	坂出市立東部小学校 4年団	南相馬 原発・震災語り部の会	総合的な学習の時間	永岡富紀子	60	55
14	9月4日(木)	香川県	坂出市立東部小学校 教職員	南相馬 原発・震災語り部の会	教員研修の時間	永岡富紀子	30	22
15	9月10日(水)	栃木県	栃木県立大田原高等学校	ニコニコ菅野農園	飯館村実地研修事前指導 ～「東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部」震災講話～	菅野クニ	50	53
16	9月11日(木)	栃木県	佐野市役所 人権・男女共同参画課 人権推進係	いわき語り部の会	人権教育指導者養成 専門講座	石塚洋悦	25	23
17	9月11日(木)	三重県	尾鷲市婦人の会連絡協議会	いわき語り部の会	尾鷲市婦人の会連絡協議会 防災講演会	木村貞子	100	120
18	9月24日(水)	埼玉県	キヤノン・コンポーネッツ株式会社	いわき語り部の会	<くゆう活>「ふくしま語り部」 講演会 東日本大震災・原子力災害	木村貞子	60	73
19	9月26日(金)	栃木県	日光市中宮祠自治会	山百合の会	奥日光地域防災の日 研修会	松田早百合	30	32
20	10月5日(日)	大阪府	シルバーユニオン災害ボランティア隊	原発震災を語り継ぐ会	「福島は今」	高村美春	30	27

02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者	団体	行事名	決定講師	予定聴講 者数(名)	実聴講者 数(名)
21	10月10日(金)	宮城県	東北ノミ株式会社	双葉町語り部の会	東北ノミ株式会社 安全衛生協力会 第13回協議会	國分信一	43	43
22	10月24日(金) 【オンライン】	沖縄県	伊是名村立伊是名中学校	山百合の会	防災訓練	松田早百合	60	50
23	10月27日(月)	徳島県	徳島県立川島中学校・高等学校	いわき語り部の会	校内人権教育講演会（中高生，教職員、保護者対象）	石川弘子	530	510
24	11月5日(水)	沖縄県	今帰仁村立今帰仁中学校	富岡町 3・11を語る会	防災講習会	宗像涼	320	280
25	11月6日(木)	静岡県	静岡県掛川市立第一小学校	星降る古里ひろの	防災について考えよう	鈴木恵子	121	116
26	11月7日(金)	徳島県	徳島県立小松島西高等学校	富岡町 3・11を語る会	人権教育講演会	吉田恵子	540	500
27	11月11日(火)	静岡県	静岡県菊川市立加茂小学校 5年1組	震災ダンボールアート語り部の会	防災学習講演会	遠藤昭三	37	37
28	11月11日(火)	静岡県	静岡県菊川市立加茂小学校 5年2組	震災ダンボールアート語り部の会	防災学習講演会	遠藤昭三	39	35
29	11月15日(土)	長崎県	長崎県平戸市教育委員会 生涯学習課	いわき語り部の会	ひらど市民大学	大谷慶一	40	24
30	11月19日(水)	熊本県	津奈木町教育委員会	會空（あいく）	津奈木町生涯学習講座（津奈木町防災講座）	庄子ヤウ子	30	31
31	11月25日(火)	神奈川県	横浜市立南瀬谷中学校	シン・ふくしま自治体職員の学校	事前学習	平野勝長	26	26
32	11月26日(水)	神奈川県	横浜市立南瀬谷中学校	シン・ふくしま自治体職員の学校	事前学習	平野勝長	26	23
33	11月26日(水)	栃木県	上三川町教育委員会生涯学習課	いわき語り部の会	上三川町人権カレッジ第5回	大河内喜男	26	19
34	11月27日(木)	神奈川県	横浜市立南瀬谷中学校	シン・ふくしま自治体職員の学校	事前学習	平野勝長	60	54
35	12月3日(水)	長崎県	長崎県長崎市立福田中学校	いわき語り部の会	福田中学校人権講話	石塚洋悦	200	170
36	12月11日(木)	京都府	京都ノートルダム女子大学 佐藤研究室	シン・ふくしま自治体職員の学校	京都ノートルダム女子大学理科室（2階）	平野勝長	40	40
37	12月12日(金)	東京都	国分寺市立第十小学校	南相馬 原発・震災語り部の会	総合的な学習の時間「国分寺防災プロジェクト」での震災講話	岩橋光善	91	104
38	12月16日(火)	青森県	国立大学法人 弘前大学	F. tellers（エフ・テラーズ）	弘前大学教養教育科目「持続可能な開発目標SDGs-弘前大学災害対応マネージャーその3 原子力災害の理解-」	穴戸結実	100	126
39	12月23日(火)	佐賀県	佐賀県唐津市	會空（あいく）	東日本大震災・原子力災害「語り人（かたりべ）」講演会	庄子ヤウ子	150	93
40	令和8年1月10日 (土)	福島県	東日本大震災・原子力災害伝承館	浪江まち物語つたえ隊	東日本大震災・原子力災害伝承館語り部講話	岡洋子	30	17

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者	団体	行事名	決定講師	予定聴講 者数(名)	実聴講者 数(名)
41	1月10日(土)	福島県	東日本大震災・原子力災害伝承館	浪江まち物語つたえ隊	東日本大震災・原子力災害伝承館語り部講話	岡洋子	30	4
42	1月14日(水)	静岡県	静岡県立吉原林間学園	いわき語り部の会	防災学習「災害について知る・学ぶ ～自分たちにできること～」	石塚洋悦	10	11
43	1月16日(金)	神奈川県	神奈川県生活協同組合連合会	おおくま町物語伝承の会	3.11東日本大震災を忘れない ～15年前の災害から学ぶ～	橋秀人	20	15
44	1月22日(木)	静岡県	湖西市立岡崎小学校	ニコニコ菅野農園	5年生岡学 防災・減災講座	菅野クニ	130	130
45	1月26日(月) 【オンライン】	沖縄県	沖縄県伊平屋村立伊平屋中学校	南相馬 原発・震災語り部の会	「ふくしま語り部」講演会	岩橋光善	60	50
46	1月29日(木)	滋賀県	米原市柏原中学校	相馬市観光協会	人権集会	井島順子	47	40
47	2月1日(日)	大阪府	安満人倶楽部 防災グループ	おおくま町物語伝承の会	安満人倶楽部と公園管理事業者パートナーズ（西武造園株式会社）との協働事業	橋秀人	100	37
48	2月4日(水)	茨城県	龍ヶ崎市立城之内中学校	ニコニコ菅野農園	震災学習	菅野クニ	210	193
49	2月5日(木) 【オンライン】	鹿児島県	鹿児島県立古仁屋高等学校	富岡町 3・11を語る会	記載なし	青木淑子	38	30
50	2月9日(月)	静岡県	駿河総合高等学校	相馬市観光協会	地域防災講話	井島順子	211	188
51	2月12日(木)	埼玉県	幸手市立吉田小学校	富岡町 3・11を語る会	東日本大震災の経験から学ぶ防災の大切さ（吉田防災フェスティバル）	宗像涼	80	50
52	2月13日(金)	新潟県	新潟市立小須戸中学校	山百合の会	東日本大震災を学びに変える	松田早百合	188	160
53	2月21日(土)	千葉県	君津市小櫃公民館	双葉町語り部の会	ふくしま語り部に学ぶ防災講座	國分信一	20	45
54	2月22日(日)	岡山県	和気町教育委員会 社会教育課	原発震災を語り継ぐ会	和気町公民館講座	高村美春	30	32
55	3月5日(木)	東京都	江東区立有明中学校	星降る古里ひろの	震災講話	鈴木恵子	385	350
56	3月7日(土)	東京都	羽村市	震災ダンボールアート語り部の会	羽村市防災週間	遠藤昭三	60	44
57	3月7日(土)	福島県	東日本大震災復興フォーラム実行委員会	南相馬 原発・震災語り部の会	3.11東日本大震災風化防止イベント～復興・その先へ2026～	永岡富紀子	40	25
58	3月10日(火)	福島県	東日本大震災復興フォーラム実行委員会	F. tellers（エフ・テラース）	3.11東日本大震災風化防止イベント～復興・その先へ2027～	發田紗織	40	37
59	3月11日(水) 【オンライン】	神奈川県	小田原市地域包括支援センターとみず	星降る古里ひろの	WEB参加型防災訓練 シェイクアウト訓練	鈴木恵子	100	175

申込み数 59件 / 予定聴講者数 5,560 名 / 実聴講者数 5,136名

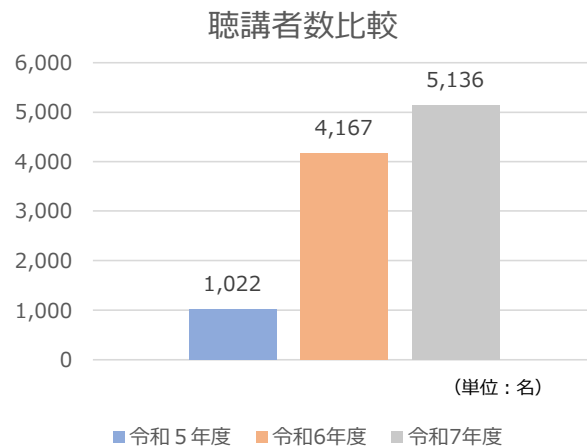
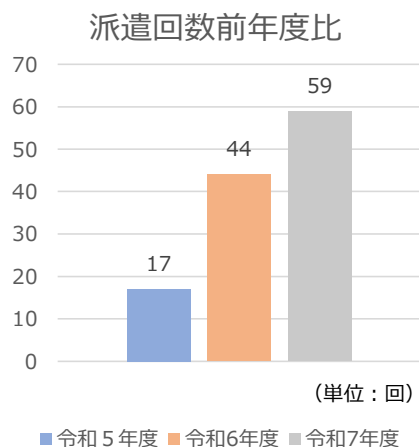
02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

2. 派遣回数・聴講者数の前年度比較

昨年度と比較すると、派遣回数は約1.34倍、聴講者数は 約1.23倍 となった。

	派遣回数	聴講者数
令和5年度	17 回	1,022 名
令和6年度	44 回	4,167 名
令和7年度	59 回	5,136 名



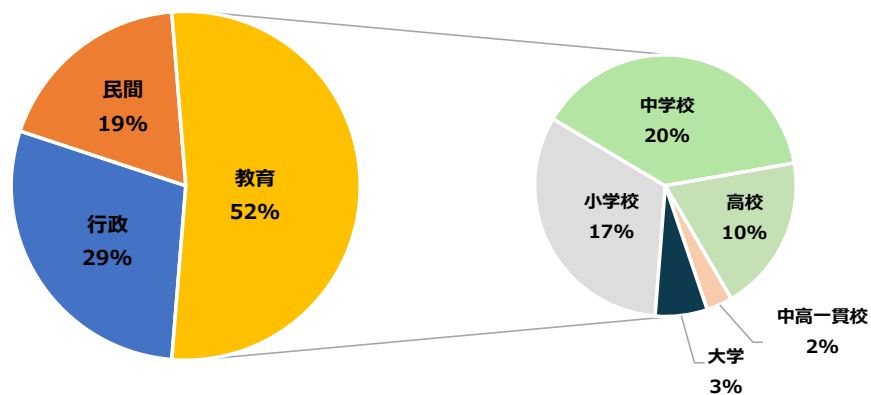
02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

3. 派遣先属性・地域等

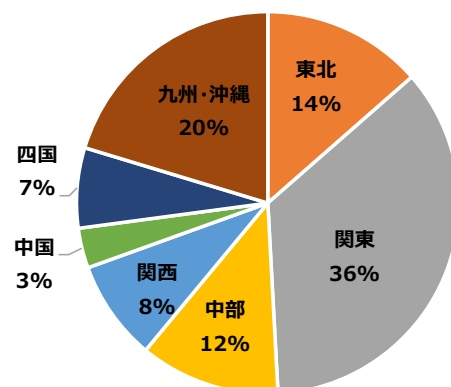
<主催者 属性>

主催者	行政	民間	教育	合計	教育内訳				
回数	17	11	31	59	小学校	中学校	高校	中高一貫	大学
					10	12	6	1	2



<主催者 地域別派遣回数>

地域	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	九州・沖縄	合計
回数	0	8	21	7	5	2	4	12	59



02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

<主催者 都道府県別派遣回数>

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
	1		1		2	4	2
栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
4		2	1	7	5	1	
石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
					6		1
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
1	1	2					
岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
2			2	2			
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
1	5	2			1	3	59

<派遣回数上位>

1位	東京都	7回
2位	静岡県	6回
3位	神奈川県・長崎県	5回

02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

4. 語り部・団体別 派遣回数一覧

<語り部別 派遣回数>

No.	語り部名	派遣回数	No.	語り部名	派遣回数	No.	語り部名	派遣回数
1	青木淑子	1	11	大谷慶一	1	21	橘秀人	2
2	猪狩輝美		12	岡洋子	4	22	橘弘美	
3	石川弘子	2	13	菅野クニ	3	23	永岡富紀子	3
4	石塚洋悦	3	14	木村貞子	2	24	發田紗織	1
5	井島順子	2	15	國分信一	2	25	平野勝長	4
6	岩橋光善	2	16	三船暁		26	松田早百合	3
7	岩本美智子	3	17	穴戸結実	1	27	宗像涼	5
8	遠藤絹子		18	庄子ヤウ子	2	28	吉田恵子	1
9	遠藤昭三	3	19	鈴木恵子	4			
10	大河内喜男	2	20	高村美春	3			

<団体別 派遣回数>

No.	語り部団体名	派遣回数	所属人数	所属 語り部名
1	F. tellers (エフ・テラーズ)	2	2	穴戸結実、發田紗織
2	シン・ふくしま自治体職員の学校	4	1	平野勝長
3	星降る古里ひろの	4	1	鈴木恵子
4	山百合の会	3	1	松田早百合
5	震災ダンボールアート語り部の会	3	1	遠藤昭三
6	いわもと社会福祉事務所	3	1	岩本美智子
7	會空 (あいく)	2	1	庄子ヤウ子
8	相馬市観光協会	2	1	井島順子
9	南相馬 原発・震災語り部の会	5	2	岩橋光善、永岡富紀子
10	原発震災を語り継ぐ会	3	1	高村美春
11	ニコニコ菅野農園	3	1	菅野クニ
12	浪江まち物語つたえ隊	4	1	岡洋子
13	双葉町語り部の会	2	1	國分信一
14	おおくま町物語伝承の会	2	2	橘秀人、橘弘美
15	富岡町 3・11を語る会	7	5	青木淑子、宗像涼、吉田恵子、 遠藤絹子、猪狩輝美
16	いわき語り部の会	10	5	石川弘子、大谷慶一、石塚洋悦、 大河内喜男、木村貞子
17	福島浜通り復興まちづくり語り部の会		1	三船暁

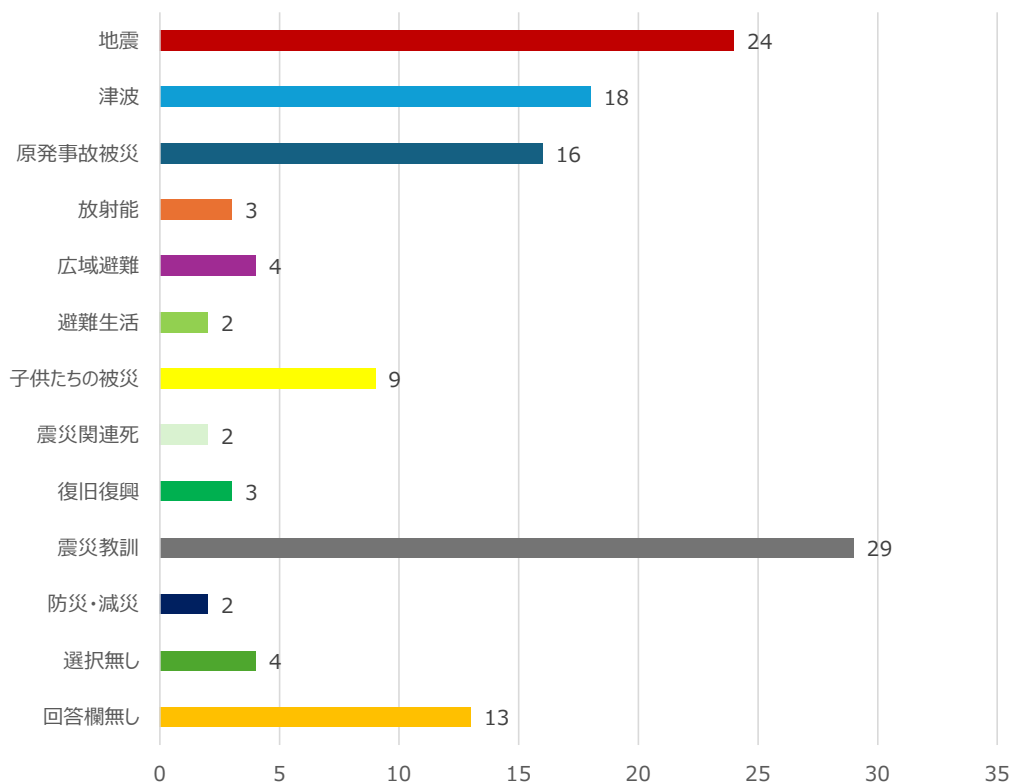
02 語り部県外派遣 実績報告

令和7年度 語り部県外派遣運営委託業務

5. 要望する講演テーマ 一覧

今年度より、主催者には申し込み時に講演で希望するテーマを申込書へご記入いただく形で申込受付を行った。
申込書では、下記のテーマの中から、最大3つまで希望する講演内容を選択していただいた。
本年度において、主催者から選択された講演テーマの数をまとめたものが下記のグラフである。

□地震 □津波 □原発事故被災 □震災教訓 □子どもたちの被災 □復旧復興
□震災関連死 □広域避難 □伝統芸能、民話 □放射線 □避難生活 □防災・減災



Ⅱ 活動調査アンケート結果について

①ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等活動調査アンケートの概要

【目 的】登録団体等の基本情報や活動状況を確認し、今後の伝承活動推進に活かすため。

【調査対象】ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体（27団体※うち未回答3団体）

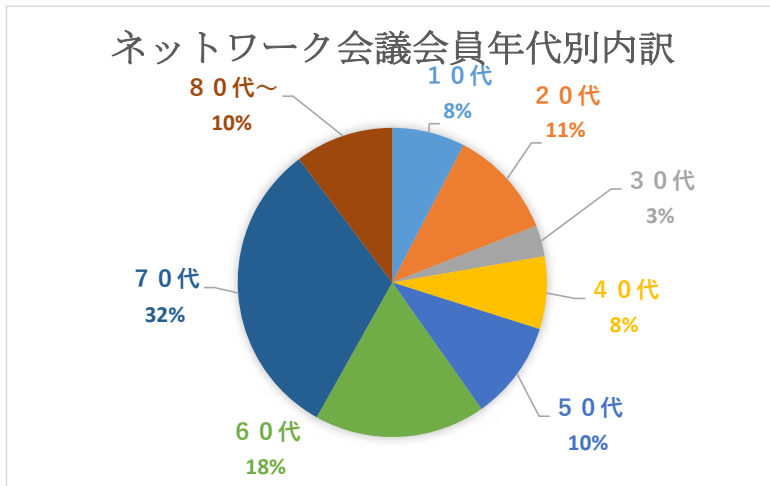
【実施期間】令和8年3月12日（木）～令和8年3月25日（水）

【回収方法】メール

②集計結果

ア 会員について

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～	計
人数（人）	14	21	6	14	19	33	58	19	184



イ 活動実績についてお答えください。

（ア）令和7年度の活動回数

活動	語り部	交流会	研修会	総会	計
回数	2,692	29	59	11	2,791

※（ア）のうち、県内教育機関における震災講話の回数

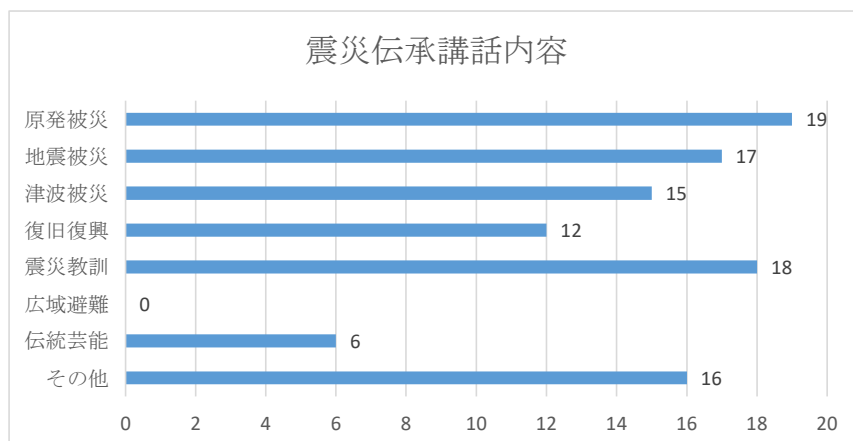
機関	小学校	中学校	高校	特別支援学校	その他	計
回数	106	53	54	1	14	228
参考（全数）	372	206	95	27	—	—

※その他
・大学
・教育事務所

（イ）令和7年度震災講話の参加者延べ人数 [58,972人]

（ウ）震災伝承講話内容

講話内容	原発被災	地震被災	津波被災	復旧復興	震災教訓	広域避難	伝統芸能	その他	計
団体数	19	17	15	12	18	0	6	16	103



※その他
・大堀相馬焼
・復興曲
・リスクマネジメント
・BCP
・食品と放射能
・防災・減災
・入院患者の避難
・避難先での共助
・営農再開

ウ 活動拠点における自治体（行政機関、学校等）との取組で、持続可能な震災伝承となる効果的な実践や関わりがございましたら、お書きください。

- ・学習センターでのシニア対象の語り部
- ・小学生を対象とした、楽しく学ぶ震災・復興を知るバスツアー
- ・校外学習講話
- ・子どもから大人まで、防災に関する講話
- ・相馬市防災備蓄倉庫の見学
- ・まちづくり出前講座に市民及び学校向けの「震災体験とその後の活動」及び「震災体験を体験して防災と減災」
- ・語り部育成講座や震災遺構請戸小学校での紙芝居上演会
- ・岩手県、宮城県、福島県の自治会役員の交流会
- ・震災物語「おほし様になったおまわりさん」「おふくろ」を上演
- ・地域の民話、日本舞踏などの伝統芸能を披露
- ・おおくまふるさと塾の活動（町内古跡巡り、町文化遺産仮標柱設置事業等）
- ・熊川稚児鹿舞保存会の伝統芸能保存活動
- ・バス借上げ費用を補助する防災・減災教育推進モデル事業

エ 国・自治体に求める支援がありましたら、お書きください。

- ・風化させないために、語り部のチャンスを作ってほしい
- ・資金提供
- ・活動運営への助成等
- ・「語り部」の地位向上について支援が欲しい
- ・豊等の障がいを持っている方や、外国人のお客様など、講話の際に通訳が必要な方が来館された際にサポートを依頼できる機関や補助があると良い
- ・今後も語り部で震災教訓を震災が無いが震災に関心がある人に語り部を続けていくことに支援してもらいたい。
- ・希望者には福島第一、中間貯蔵施設、震災遺構等の見学を支援してもらいたい。
- ・学校（中高生）を巻き込んだ持続可能な行政の対応
- ・補助金等の金銭的な活動支援
- ・原発事故によって避難した人々の帰還促進支援（継承人材増となるよう）
- ・伝承活動を「震災学習」「防災活動」の原点として研修などで義務付け、伝承活動の継続と次世代への伝達を実現する支援とする。
- ・インバウンド対応する伝承語り部は、単なる英語原稿の読み上げだけでなく、津波・原子力被災の体験者、震災復興にあたっている者が、自らの言葉で英語で語り、質疑応答できるレベルの英語力を身に着けた上で対応すべき。

オ 令和7年度のインバウンド対応（外国人向け講話）についてお答えください。
対応した外国人の国籍…アメリカ、台湾、ドイツ、スペイン、イタリア
※多国籍のため把握が難しいケースもあった。

4 協議

I 令和8年度事業計画

1 ネットワーク化・レベルアップ

(1) 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

会議	開催時期	時 間	場 所	主な内容
第1回	5/15(金)	14:00～15:20	双葉町産業交流センター	令和8年度事業計画等について
第2回	令和9年 2/13(土)	13:30～15:30	双葉町産業交流センター(予定)	・令和8年度事業報告 ・令和9年度事業計画(案)

(2) ふくしま震災伝承者交流会

日 時：11/10(火)13:00～16:00

場 所：双葉町産業交流センター 大会議室

参加対象：震災伝承者、震災伝承に興味のある方、関係市町村等

・基調講演、意見交流(グループワーク等)

【テーマ候補】(令和7年度ふくしま震災伝承者交流会のアンケート結果から)

①沖縄の「平和学習」に学ぶ次世代への継承の仕組み(福島において「震災を知らない世代」に継承するヒント)

②「伝わる」資料作成術(スライド作成、資料作成の技術)

③災害の垣根を越えた伝承(阪神・淡路大震災、または中越地震の伝承活動がどのように継承されてきたか)

④絵本から学ぶ「感情に届ける」伝承技術(講師候補：すとうあさえ先生(「ディーゼルきかんしゃデデ」作者))

その他：県空港交流課において、沖縄県の語り部との交流事業を調整中。

時期、実施内容は検討中、沖縄県の語り部が来県することも検討されており、交流会等の場に参加する可能性がある。

2 伝承者育成

(1) 伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム会議

会議	実施日	時 間	場 所	主な内容
第1回	6/24(水)	10:00～11:50	双葉町産業交流センター	令和8年度伝承者育成講座等について
第2回	令和9年 1/14(木)	10:00～11:50	富岡町文化交流センター	・令和8年度講座実施報告 ・令和9年度伝承者育成講座(案)等

(2) 次世代伝承者育成講座(日本語、中国語話者向け、英語)

3 語り部派遣

(1) 3.11 被災地視察研修

日にち：10/8(木)～10/9(金)(1泊2日)

場 所：中間貯蔵施設、東京電力第二原子力発電所、復興祈念公園周辺(候補)

対 象：ネットワーク会議会員・語り部県外派遣者

※8月頃に参加者募集を予定。

(2) 語り部県内派遣事業

(3) 語り部県外派遣事業

③令和8年度伝承者育成講座について

令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害 伝承者育成講座 開催要項（案）（次世代へつなぐ震災伝承事業）

1 事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から15年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性がより一層増している。その一方で、後継者の育成が課題であることから、福島県の複合災害の記憶と教訓を伝える語り部等を育成するため、伝承者育成講座を実施する。

2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 日程・内容

○開講式・第1回伝承者育成講座

【日時】令和8年7月18日（土）10：30～16：30（受付10：20～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】開講式

1時間目「語り部の役割」

2時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

3時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

○第2回伝承者育成講座（1日目） ※宿泊については希望される方のみ。

【日時】令和8年9月26日（土）9：30～17：20（受付9：20～）

【場所】集合場所：双葉町産業交流センター 駐車場

・フィールドワーク訪問地 大熊町中間貯蔵施設・いわき市薄磯地区

※バスでの移動

・意見交換会 双葉町産業交流センター 大会議室（予定）

【内容】フィールドワーク・意見交換会

○第2回伝承者育成講座（2日目）

【日時】令和8年9月27日（日）9：00～14：45（受付8：50～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】1時間目「伝わりやすい話し方講座」

2時間目「プレゼンテーションスキルアップ」

○第3回伝承者育成講座

【日時】令和8年11月28日（土）10：30～14：30（受付10：20～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】「プレゼンテーションスキルアップ2」

○第4回伝承者育成講座・修了式

【日時】令和9年2月13日（土）10:00～14:00（受付9:50～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】成果発表・修了式

※修了式は、同日の午後に開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行う。

○その他

（1）①講座はマスコミオープンとする。

②受講者の様子を毎回、写真や動画で撮影し、活動報告及び広報活動（ウェブサイト、次年度以降のチラシ等）で利用する。

（2）第2回伝承者育成講座は2日間にわたり開催する。宿泊は、希望者のみで、宿泊費は、受講者負担とする。宿泊先は、双葉町内のホテル（シングル8,000円程度）を予定。

（3）全回、全課程を受講した者に修了証書を授与する。

（4）受講修了者で、一定の条件を満たした者は、県外語り部派遣者として登録する。

4 受講対象 ・一般の方（高校生以上）で、福島県の震災伝承活動に関心がある方
・現在（過去も含む）、福島県の震災伝承活動をしている方

5 募集人数 15名程度

6 受講料 無料（交通費・宿泊費等は自己負担とする。）

7 申込方法

（1）締切日 令和8年6月26日（金）（予定）

（2）方 法 受講希望者は、「（様式）令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座 受講申込書」に必要事項を記入し、下記申込先へメールで申し込む。

8 受講者の選考

受講申込みが募集定員を超えた場合は、未経験者を優先する。

選考結果は7月上旬に申込者全員に送付する。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7784）

(様式) 令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座 受講申込書

(ふりがな) 氏 名	氏		名		生年月日
					昭和・平成 年 月 日
住 所	〒				
電話番号	【自宅】 【携帯】				
メールアドレス					
職 業					
所 属 (語り部団体)					
語り部経験 ※経験有りの 方のみ記入	語り部経験年数		直近の年間講演回数		
	年		回／年		
受講理由	【動機】				
伝えたいこと (被災体験・ 教訓など)	【これまでの震災伝承活動に関する取組など】				
本講座を知っ たきっかけ	(例：普段からの心構え、災害時の行動等)				

- ①本講座はマスコミオープンとする。
②受講者の様子を毎回、写真や動画で撮影し、活動報告及び広報活動（ウェブサイト、次年度以降のチラシ等）で利用する。

申込先：東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp
(事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7784)

・令和8年度 伝承者育成講座

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員および新規語り部希望者を対象に、多様な語りと知識を学び、福島への自身の想いを語るための研修を行います。

※講師に関しては県事業の精査及び伝承者育成PTの検討を加え調整します。

全体コーディネート：福島大学准教授 前川 直哉氏

回	項目	目的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第1回 7月18日 (土) 双葉町産業交流センター 大会議室 (予定) 開講式 10:30～	開講式					
	語り部の役割 (90分) 10:40～12:10	先輩語り部の講話を聴き、これまでの自身の活動を振り返ることで、語り部の役割についての理解を深め、自身が語ることの意義を理解することができる。	先輩語り部の実演を見学し、限られた時間の中で受講生に伝えるべきことをどのようにして語り、伝えようとしているかを習得します。 ＜内容案＞ ①震災講話を聴く ②講義(語り部の役割の本質的な理解) ③質疑応答	ネットワーク会議会長	・語り部としての心構えの習得 ・伝えるべき事項(震災の実相)の表現方法の習得 ・復興への挑戦からその「思い」を知る。	・講演資料(講師が準備の有無を確認)
	地域の想いの共有ワークショップ (75分) 13:00～14:15	語り部活動の課題と意義を整理し、語り継ぐ内容の本質について自分自身で理解し、言葉にすることで、「ふくしま震災等語り部」として自身の思いや伝えたいメッセージを具現化することができる。	未曾有の複合災害と、そこからの復興に向け果敢に挑戦する人々との意見交換を通して、自身が伝えたいメッセージの具現化と、語り部の取組の本質について理解を深めます。 ＜内容案＞ ①円卓等での相互インタビュー ②意見交換による深掘り ※「気づき」を持たせるヒントの与え方	復興に向け果敢に挑戦する人々 富岡町3・11を語る会代表 青木淑子氏、 福島大学准教授 前川 直哉氏 (予定)	・ふくしま震災等語り部としての意識を、より高める ・自身の想いを伝えるための創意工夫と他の語り部との相違点	・福島のある日からいま ・防災手帳
	よくある質問・震災知識についてのワークショップ (120分) 14:30～16:30	多くの人に知ってほしい福島のおかし、いま、未来について、事実が伝わっていないことや、伝わりづらいことを再認識することができる。	自身の語りの幅を広げるため、それぞれの経験や知識などを共有する機会を設けます。(地震・津波・原発事故・避難生活・放射線の基礎等) ＜内容案＞ ①聴講者からの「よくある質問」に答える(各グループ) 班編制4人程度 ②フィールドパートナーの話 ③意見交換(各グループ) ※「気づき」を持たせるヒントの与え方 ※情報を収集し、多様性を理解するとともに持論を持つことを意識する	フィールドパートナー ふくしまリアリ代表 山口祐次氏 (予定)	・福島震災発生前、震災発生当時、震災発生後の事実についての共通理解 ・自身が想定していない質問や意見への対応と、多様性の理解 ・受講生の知識・意見などを共有 ・触れづらいことも知識として会得していく	・福島のある日からいま 地震・津波 P4～9 原発事故 P10～13 避難 P14～17 P20～23 放射線基礎 P18～19 ・放射線副読本 放射線について知ろう P3～11 原子力発電所の事故と復興のあゆみ P12～14 風評被害や差別 P15～16 食べ物の安全性 P17～18

※第2回研修までに語り部原稿・メモの見直し

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月26日 (土) (1日目) 双葉町産 業交流セン ター出発 <u>9:30</u> (予定)	語り部案内に よるフィールド ワーク① (120分) 9:50～ 11:50	福島県内の語り 部の活動内容を 実践の場で体験 し、その活動現 場を訪れる。また、 自分自身の経 験を語るために 必要なスキルや 伝えるべき震災 の実相について、 参加者の間で学 び合う。	語り部の話を聞いたうえで、地域の 現状を把握するため、震災現場を 訪れます。語り部の実体験に基づく 説明を聞きながら、語り部活動の 重要性について考えます。 ＜内容案＞ ①震災現場訪問 ②語り部による地域案内 ③現場訪問フィードバック	・フィールド ワーク① 中間貯蔵施設 大熊未来塾 代表：木村 紀夫氏(予 定) ・バス移動中 (大熊～い わき) ネット ワーク会議会 員による案内 ・フィールド ワーク② いわき市薄磯 地区 いわき語り部 の会代表： 大谷慶一氏 (予定) ・バス移動中 (いわき～双 葉) ネット ワーク会議会 員による語り	・自身が発信すべきこ とを具現化することが できる。 ・自分事を相手に伝 え、共感を得ることが できる	・講師資料(講 師が準備の有 無を確認) ・フィールドワ ーク資料(現場案 内で普段使用 しているもの) ※2日目研修 までに自身の語 り部原稿素案 (概要)を見直 し、原稿案とし て作成
	語り部案内に よるフィールド ワーク② (100分) <u>13：50～</u> <u>15：30</u>					
	双葉町産 業交流セン ター 大会議室 (予定)		意見交換会 (40分) <u>16：40～</u> <u>17：20</u>	フィールドワークを終え、実際の現場 を体験してみての感想や、語り部の 話す内容との違いや疑問等につい て、意見交換を行います。参加した 受講生の気づきや、自身の思いを 具現化するために必要なことにつ いて考えます。 ＜内容案＞ ①語り部との意見交換	意見交換 会：福島 大学准教 授 前川 直哉氏 (予定)	・自身の経験を価値 に変えるための気づき を得る

宿泊準備

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月27日 (日) (2日目) 双葉町産業交流センター 大会議室 (予定)	伝わりやすい話し方講座 (90分) 09:00～ 10:30	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法に気づくことができる。	話し方講師から、語り部として伝えたいことを、自分の言葉で表現する方法を習得します。 ＜内容案＞ 話し方講座、多様な伝え方	福島大学 特任講師 久保田彩乃氏 (予定)	・語りを自身の言葉で伝えることができる	・講師資料 (講師に準備の有無を確認) ※第3回講座まで発表の練習
	プレゼンテーションスキルアップ (180分) 10:45～ 14:45 ※途中60分昼食休憩	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法を身につけることができる。	原稿に沿って実演を行い、参加者同士の意見交換を行います。さらに、受講生のセルフチェック用に実演の動画撮影を行います。 ＜内容案＞ 受講者の実演と実演に関する意見交換	福島大学 特任講師 久保田彩乃氏 (予定)	・自分事を相手に伝え、共感を得ることができる	

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第3回 11月28日 (土) 双葉町産業交流センター (予定)	プレゼンテーションスキルアップ 2 (180分) 10:30～ 14:30 ※途中60分昼食休憩	語り部自身が納得のいく語りを完成させるための余白を埋め、自分ごとの成果と進化およびその評価の向上を目指す。	語り部として、与えられた時間内に自身の想いを来場者に具体的に伝え、共感を得るための工夫やアピールの手法について、講師とともに学び合います。 ＜内容案＞ ①語り部プレゼンテーション ②受講生同士のスキルアップ	福島大学 准教授 前川 直哉氏 先輩語り部	・語りを通じ、来場者の共感や地域に対する想いの伝播が、自身で納得のいく反応を得ることができる。	・講師資料(講師が準備の有無を確認) ※第4回講座まで発表の練習

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	備考
第4回 令和9年 2月13日 (土) 双葉町産業交流センター (予定)	成果発表 (120分) 10:00～ 12:00	これまでの講座での取組を活かしながら、震災語り部として、自身の思いを伝えることができる。	4～5グループに分かれてパフォーマンス実演を行います。(1グループ3～4人＋講師) ※講師は発表者ごとに評価と講評を行う	先輩語り部 (東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議 会長・副会長・会員)	発表の様子は記録動画に保存し、受講者の振り返りに活用する。

修了式 (2月開催の第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議内)

④令和８年度伝承者育成講座（中国語話者向け）について

令和８年度福島県東日本大震災・原子力災害 伝承者育成講座（中国語話者向け）開催要項（次世代へつなぐ震災伝承事業）

- 1 事業の目的 中国語圏からの来県者の増加に伴い、今後さらに震災関連のインバウンド需要の増加が見込まれることから、福島県の未曾有の複合災害の記憶と教訓を、中国語で伝えることができる語り部を育成する。
- 2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
- 3 日程・内容 令和８年度伝承者育成講座 開催要項のとおり（日本語講座に参加する）。
- 4 受講対象 福島の震災語り部を希望する中国語が話せる方（講座の日本語が理解できることが条件）
- 5 募集人数 2名程度
- 6 受講料 無料（交通費・宿泊費等は自己負担とする。）
- 7 申込方法 (1) 締切日 令和８年６月２６日（金）
(2) 方 法
受講希望者は、「（様式）令和８年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座（中国語話者向け）受講申込書」に日本語で必要事項を記入し、下記申込先へメールで申し込む。
- 8 受講者の選考 受講申込みが募集定員を超えた場合は、書類審査により選考する。選考結果は７月上旬に申込者全員に送付する。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7784）

(ふりがな) 氏 名	氏		名		生年月日
					昭和・平成 年 月 日
住 所	〒				
電話番号	【自宅】 【携帯】				
メールアドレス					
職 業					
所 属 (語り部団体)					
語り部経験 ※経験有りの 方のみ記入	語り部経験年数		直近の年間講演回数		
	年		回／年		
受講理由	【動機】				
伝えたいこと (被災体験・ 教訓など)	【これまでの震災伝承活動に関する取組など】				
本講座を知っ たきっかけ	(例：普段からの心構え、災害時の行動等)				

- 申込先：東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp
(事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7784)

⑤令和 8 年度伝承者育成講座（英語）（案）について

福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座（英語）について

1 事業の方向性について

令和 7 年度の第 2 回ネットワーク会議において、英語講座の課題が明らかとなったため、事業の方向性について検討していく必要がある。

まず、今年度の取り組みについては、県事業の予算額や使途の制約があるため、令和 7 年度の講座の取り組みを踏襲しつつ、改善できる点については見直して実施する。

次年度以降に向けては、あるべき姿について検討し、事業に反映していく。

2 令和 8 年度事業について

別紙開催要領により実施したい。令和 7 年度からの変更点は以下のとおり。

(1) 受講にあたっての目標の設定について

令和 7 年度までの取り組みを踏まえ、あらかじめ、受講者の能力や意思に合わせて到達地点を相談するオンラインのプレ講座を実施する。

(2) 受講者の要件について

原則として新規申し込みを対象とするが、人数に余裕がある場合には一度受講したものの再受講を認める。

(3) 講師の役割の明確化

原稿の英訳は事務局を通じて県国際課で実施する。講座内においては、スピーチ原稿やスライドの英語表現について、伝わりやすさの面から、講座内で助言してもらえるようにする。

3 令和 9 年度以降に向けた取り組みについて

これまで、英語講座は事務局中心で実施しており、伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム（PT）での議論の対象となっていなかった。今後は、育成講座と同様、英語講座についても対象者や目指すべき姿を PT で議論していくこととし、明らかになってきた課題を踏まえてあるべき姿を検討、見直していく。

令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害

伝承者育成講座（英語）開催要項（案）（次世代へつなぐ震災伝承事業）

1 事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から15年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性が増すとともに、インバウンドのニーズが高まっている現状から、海外に向けた震災伝承に対応するため、本講座を実施する。

2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 日程・内容

○プレ講座

【日時】令和8年6月〇日（〇） ※オンライン

受講希望者全員が参加

【内容】英語講座の概要の説明と、それぞれの現在のレベルに合わせた到達目標を設定する。

○第1回講座

【日時】令和8年7月18日（土） ※対面（育成講座と同日）

受講生①の講座：10:40～11:40

受講生②の講座：12:40～13:40

受講生③の講座：14:10～15:10

※講座は講師と受講生のマンツーマン式で行う。

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室（予定）

【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」

○第2～4回講座 いずれも候補日、オンラインを想定

【日時】令和8年9月5日（土）

令和8年10月17日（土）

令和8年12月5日（土）

受講生①の講座：9:00～10:00

受講生②の講座：10:30～11:30

受講生③の講座：12:30～13:30

【内容】「翻訳原稿の音読講座②～④」

○第5回講座・修了式

【日時】令和9年2月13日（土）10:00～12:00 ※対面（育成講座と同日）

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室（予定）

【内容】成果発表

※修了式は、同日の午後に開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行う。

4 受講対象

○東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員で、おおむね語り部歴3年以上の方または伝承者育成講座の修了者で受講を希望される方。

○「津波による被災」「原発事故による長期避難」「復興の取組」等のいずれかのテーマで話せる方。

5 募集人数 3名程度

6 受講者選考方法

語り部団体から、「(様式) 令和8年度東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座(英語) 受講希望者推薦書」により、推薦があった候補者の中から事務局で選考し被推薦者に意思確認を行う。被推薦者から承諾を得た後、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の承認を受けて、受講生を決定する。選考結果については、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等へメールで報告する。

7 受講料 無料(交通費、昼食費、オンラインに要する費用は、自己負担とする。)

8 全体スケジュールイメージ

事前準備(5月～6月)	講座受講(7月～2月)	成果発表	修了後
①語りの原稿(日本語発表で20分程度の原稿)を作成、事務局に提出。 ②県国際課で英訳・音声データの提供を受け、音読練習を行う。	○全5回講座、講師と受講生のマンツーマン式。 ※次回の講座まで、各自で自主練習(翻訳原稿の音読練習)を行う。	○第5回講座で成果発表(語り約20分、講評10分程度を予定)	○ネットワーク会議各団体や伝承館等のインバウンド対応。

9 その他

- (1) 本開催要項の日程は、今後、参加者の状況に応じて変更することがある。
- (2) 成果発表は、講師のほか英語話者の聴講を調整する。
- (3) 本講座は英語スピーチの習得に特化したものであり、英会話の習得を目的としない。
なお、質疑応答は引き続き通訳を介することを前提とする。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

(事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7784)

(様式) 令和8年度東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座(英語)受講者推薦書(案)

◆ 推薦者の連絡先

団 体 名	
代表者名	
メー ル	
電話番号	

◆ 被推薦者について御記入ください。

(ふりがな) 氏 名	氏		名		生年月日 昭和・平成 年 月 日
住 所	〒				
メー ル					
電話番号					
語 り 部 経 験	語り部経験年数		直近の年間講演回数		
	年		回／年		
◇話の主な内容(「津波による被災」「原発事故による長期避難」「復興の取組」等、東日本大震災に関連する内容を記入)					
◇伝えたいこと(例: 普段からの心構え、災害時の行動、教訓 等)					
◇現在の英語力(TOEIC、英検等)や英語の学習・使用経験等					

推薦書は、令和8年5月●日(●)までメールで御提出願います。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール: f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

(事務局: 福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL: 024-521-7784)

⑥令和8年度語り部県内派遣事業（案）について

令和8年度東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部派遣事業 （県内教育機関向け派遣）

1 事業の目的

震災・原発災害の記憶・経験がない世代への震災伝承を図ることを目的に、県内教育機関で行われる震災学習でのふくしま語り部ネットワーク会議会員（語り部）の活用を勧める。

2 主催

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 事業内容

派遣案内チラシを福島県教育庁担当課及び私学・法人課を経由して、県内教育機関へ送付するとともに、語り部の積極的な活用を依頼する。

- ・義務教育課→公立小中学校（義務教育学校含む）、福島大学附属学校
- ・高校教育課→県立高等学校
- ・特別支援教育課→県立特別支援学校
- ・私学・法人課→私立小中高等学校、専修学校

4 その他

各学校からネットワーク会議登録の各団体へ申込みにより、派遣実施（謝金・旅費は各団体の規定による）。

ふくしま震災語り部から 防災・震災について 学んでみませんか

東日本大震災・原子力災害の経験や教訓を伝える
「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」を派遣します

東日本大震災及び原子力災害の発生から15年が経過し、全国で風化が進行する中、震災等の記憶と教訓を人々の心に刻むものとして、語り部の生の声による伝承活動が重要視されています。

本事業では、「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」を、各小中学校・義務教育学校、各県立・私立学校等に派遣し、世界に類を見ない複合災害の経験や教訓、そこから立ち上がる福島の歩みや現状について思いを伝えます。

ぜひ児童生徒の震災学習や防災教育、教職員の研修等に、ふくしま震災語り部をご活用ください。

派遣地及び派遣する語り部

（1）派遣地

県内の各小・中学校・義務教育学校、各県立・私立学校等

（2）派遣する語り部

「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議」登録団体等の語り部

申し込みから開催までの流れ

（1）申し込み

下記の申込先へ、希望日の約1カ月前までにお申し込みください。

（2）申込者（各学校担当者）と派遣語り部との電話・メール等での打ち合わせ

開催に向けての準備等を進めます。

（3）会場への派遣、開催

会場設営、必要機器等の準備を行ってください。

申し込みの際の注意事項

（1）語り部の謝金・旅費については、各団体の規定に基づいた金額を、申込者（各学校等）で負担となります。

（2）語り部による震災講話は、質疑応答を含め、1時間程度となります。

（3）必要機器等（プレゼンテーションソフトを使用できるパソコン、スクリーン、机、マイク及びマイクスタンド等）は各学校等でご準備願います。

申し込み・問い合わせ先

（1）申込み・お問い合わせは、「ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体一覧」に記載してある各団体に、直接連絡をお願いいたします。

（2）本事業において、ご不明な点がございましたら、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議事務局（福島県生涯学習課）までお問い合わせください。

◆東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議事務局（福島県生涯学習課内）

TEL 024-521-7784

電子メール f.kataribe@pref.fukushima.lg.jp

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055b/>

※「ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体一覧」を掲載しています。



⑦令和8年度語り部県外派遣事業 県外派遣者(案)について

令和8年度語り部県外派遣の登録者一覧

No.	派遣登録団体	派遣登録語り部	語り部経験年数(年)	R7年度から継続／R8年度から新規(選択)	育成講座修了者(修了年度を選択)
1	F.tellers(エフ・テラーズ)	前川 直哉	12	継続	—
2		穴戸 結実	1	継続	R6年度
3		發田 紗織	1	継続	R6年度
4		渡辺 駿	1	継続	R6年度
5		安倍 さくら	0	新規	R7年度
6		鈴木 雅稀	0	新規	R7年度
7	シン・ふくしま自治体職員の学校	平野 勝長	2	継続	R6年度
8	星降る古里ひろの	鈴木 恵子	7	継続	R7年度
9	山百合の会	松田 早百合	13	継続	R6年度
10	震災段ボールアート語り部の会	遠藤 昭三	3	継続	R5年度
11	會空	庄子 ヤウ子	10	継続	—
12	NPO法人市民活動ネットワーク相馬	畠中 正一	14	新規	—
13	相馬市観光協会	井島 順子	14	継続	—
14		小幡 広宣	9	新規	—
15	南相馬 原発・震災語り部の会	岩橋 光善	13	継続	—
16		永岡 富紀子	2	継続	R6年度
17	原発震災を語り継ぐ会	高村 美春	14	継続	R7年度
18		新川 智恵子	5	新規	R7年度
19	ニコニコ菅野農園	菅野 クニ	10	継続	—
20	浪江まち物語つたえ隊	岡 洋子	12	継続	—
21	いわもと社会福祉士事務所	岩本 美智子	3	継続	R5年度
22	双葉町語り部の会	國分 信一	1	継続	R6年度
23		大竹 英子	0	新規	R7年度
24	おおくま町物語伝承の会	橘 秀人	6	継続	—
25		橘 弘美	6	継続	—
26	富岡町3・11を語る会	青木 淑子	13	継続	—
27		宗像 涼	7	継続	—
28		遠藤 絹子	2	継続	R6年度
29		吉田 恵子	10	継続	R6年度
30		福島 芳子	0	新規	R7年度
31		佐藤 勇樹	7	新規	R7年度
32	いわき語り部の会	大谷 慶一	14	継続	—
33		石川 弘子	14	継続	—
34		大河内 喜男	11	継続	—
35		石塚 洋悦	4	継続	R5年度
36		木村 貞子	4	継続	R5年度

※ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体(方部別)の順番

【派遣する語り部の決定方法】

- 派遣依頼者が、県外派遣事務局へ申込書を提出する。
※申込書には講演内容の要望のみを記載し、語り部個人や団体の指名は受け付けない。
- 県外派遣事務局は、派遣登録団体リストの順に、団体へ申込書を送付する。
※派遣登録語り部の人数に応じた回数が、派遣登録団体にまわるようにする。
- 派遣登録団体は、申込書を確認し、要望された講演内容に対応可能か判断する。
 - 対応可能な場合
派遣する語り部を決定し、派遣準備を進める。
 - 対応困難な場合
要望に適した語り部が団体内にいない場合は、パスする。
県外派遣事務局は、派遣登録団体リストの次順位の団体へ調整を行う。(以下同様)
なお、パスした団体については、次回の県外派遣依頼時に最優先で調整を行う。

**東日本大震災・原子力災害
ふくしま語り部ネットワーク会議設置要綱**

(設置目的)

第1条 東日本大震災・原子力災害の記憶と教訓を後世へ伝えていくため、県内の語り部団体等が連携し、持続可能な震災伝承の体制を構築することを目的として、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議（以下「ネットワーク会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 ネットワーク会議は、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 語り部団体の連携促進に関すること。
- (2) 語り部の人材育成に関すること。
- (3) 語り部の県外等への派遣に関すること。
- (4) その他ネットワーク会議の目的を達成するために、会長が必要と認める事項。

(組織)

第3条 ネットワーク会議は、第1条の目的に賛同する県内語り部の団体を代表する者等（以下「委員」という。）をもって組織する。

- 2 委員は、無報酬とする。
- 3 ネットワーク会議に、会長及び副会長1人を置き、委員の互選により定める。
- 4 会長及び副会長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(会長及び副会長)

第4条 会長は、ネットワーク会議の業務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会長は、ネットワーク会議を招集し、年1回以上開催するものとする。

- 2 会長は、ネットワーク会議を招集しようとするときは、書面により会議の日時、場所及び議題をあらかじめ委員に通知するものとする。
- 3 会長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見・助言を求めることができる。
- 4 会議は公開で行う。ただし、個人のプライバシー保護及び法令等による公開禁止に該当する場合、非公開とすることができる。
- 5 会議の資料及び議事録については、原則として公開する。ただし、個人のプライバシー保護及び法令等による公開禁止に該当する場合、その全部又は一部を非公開とすることができる。

(部会)

第6条 ネットワーク会議に、部会を設置することができる。

2 部会の組織及び運営については、別に定める。

(事務局)

第7条 ネットワーク会議の事務局を、福島県文化スポーツ局生涯学習課に置き、生涯学習課長を事務局長とする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、ネットワーク会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、令和4年11月6日から施行する。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体（令和8年5月）

方 部	市町村	名 称	代表者	連絡先	講話内容
1 2 3 4 5 県北	福島市	F. tellers（エフ・テラーズ）	前川 直哉	r873@ipc.fukushima-u.ac.jp	地震・原発事故被災、震災教訓、子供たちの被災
	福島市	シン・ふくしま自治体職員の学校	平野 勝長	katsunaga.h@gmail.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、復旧復興
	福島市	星降る古里ひろの	鈴木 恵子	080-1824-3382 k.s.07280822@gmail.com	原発事故被災、震災関連死、広野町
	福島市	山百合の会	松田早百合	rantoumae@gmail.com	原発事故被災
	二本松市	子ども音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団	萩原 和也 佐藤 敬子	090-5187-9019（担当：佐藤）	地震・津波、震災教訓、広域避難、広域避難
6 7 8 県中	郡山市	震災ダンボールアート語り部の会	遠藤 昭三	090-8618-3196 syo1955endo@gmail.com	地震、原発事故被災
	郡山市	ふくしまリアリ	山口 祐次	024-953-4018 info@f-riari.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
	須賀川市	藤沼湖自然公園 復興プロジェクト委員会	深谷 武雄	0248-67-3121（長沼商工会） naganuma@train.ocn.ne.jp	地震被災、震災教訓
9 10 会津	会津若松市	會空（あいくう）	庄子ヤウ子	090-9704-9622 yoko.shoji0718@gmail.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
	会津坂下町	防災語り部の会	鶴見美佐子 鶴見 常夫	090-1374-3687 tc8ny3@bma.biglobe.ne.jp	地震・津波・原発事故被災、震災教訓
11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 相双	相馬市	NPO法人市民活動ネットワーク相馬	畠中 正一	080-5562-3335 satobatake@gmail.com	地震・津波・原発事故被災・子供教育・歴史文化保存伝承 震災被災紙芝居「自主避難者物語」上演
	相馬市	相馬市観光協会	草野 清貴	0244-35-3300（担当：渋谷） kanko@bb.soma.or.jp	地震・津波被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
	南相馬市	南相馬 原発・震災語り部の会	岩橋 光善	090-2607-0701 oo2k3y52bs7k@asahinet.jp	原発・震災の体験体験を語り継ぎ、復興の現状と課題や防災・減災が大切であることを伝えること
	南相馬市	原発震災を語り継ぐ会	高村 美香	wwinainaibar@yahoo.co.jp	原発事故被災
	飯館村	ニコニコ菅野農園	菅野 クニ	kuni@nico2farm.jp	原発事故被災、広域避難、復旧復興、伝統芸能
	浪江町	浪江まち物語つたえ隊	八島 紀彩	090-9749-6189 840hisai@gmail.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興、伝説・民話
	浪江町	大堰相馬焼協同組合	半谷 貞辰		※語り部派遣は行っておりません。
	双葉町	いわもと社会福祉士事務所	岩本 美智子	090-1067-4010 yuki_yoshi1005@yahoo.co.jp	地震、津波、原発事故被災、高齢者施設の避難リスクと防災について
	双葉町	東日本大震災・原子力災害伝承館	高村 昇	0240-23-4402（担当：横山）	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興、伝統芸能 ※語り部派遣は行っておりません。
	双葉町	双葉町語り部の会	國分 信一	090-4045-4742 shikokubun@ozzio.jp	放射線、原発事故内容、地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
	大熊町	大熊未来塾	木村 紀夫	080-6006-4811 okuma.future@gmail.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興、伝統芸能、社会問題
	大熊町	おおくま町物語伝承の会	橋 秀人	090-5312-2576 hidetotachibana79@gmail.com	原発事故被災、伝統芸能、震災教訓、復旧復興
	大熊町	HITokumalab	佐藤 亜紀	akisatookuma@gmail.com	原発事故被災、広域避難、復旧復興、伝統芸能
	大熊町	FUKUSHIMA WWW.（フクシマウィーアー）	佐藤 夏美	090-3286-2375 natsumi.sato@readysocial.co.jp	地震・津波・原発事故被災、復旧復興、防災
	富岡町	富岡町 3・11を語る会	青木 淑子	0240-23-5431 kataribe_office@tomioka311.com	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難、復旧復興
	楢葉町	Jヴィレッジ	鶴本 久也	0240-26-0111（担当：猪狩）	地震・津波・原発事故被災、復旧復興
27 28 29 いわき	いわき市	いわき語り部の会 （いわき震災伝承みらい館）	大谷 慶一	0246-38-4894	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、広域避難復旧復興
	いわき市	いわき市観光物産センター （いわき・ら・らミュウ）	本田 和弘	0246-92-3701（担当：仙坂）	地震・津波・原発事故被災、震災教訓、復旧復興
	いわき市	ふくしま海洋科学館 （アクアマリンふくしま）	古川 健	0246-73-2539（担当：大石）	地震・津波被災、復旧復興

合計29団体